

## 平成27年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

### 佐賀市立西与賀小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

#### ■ 調査期日

平成27年4月21日(火)

#### ■ 調査の対象学年

小学校6年生

#### ■ 調査の内容

##### (1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A、理科〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B、理科〕
<ul style="list-style-type: none"><li>身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容</li><li>様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容</li></ul>

##### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

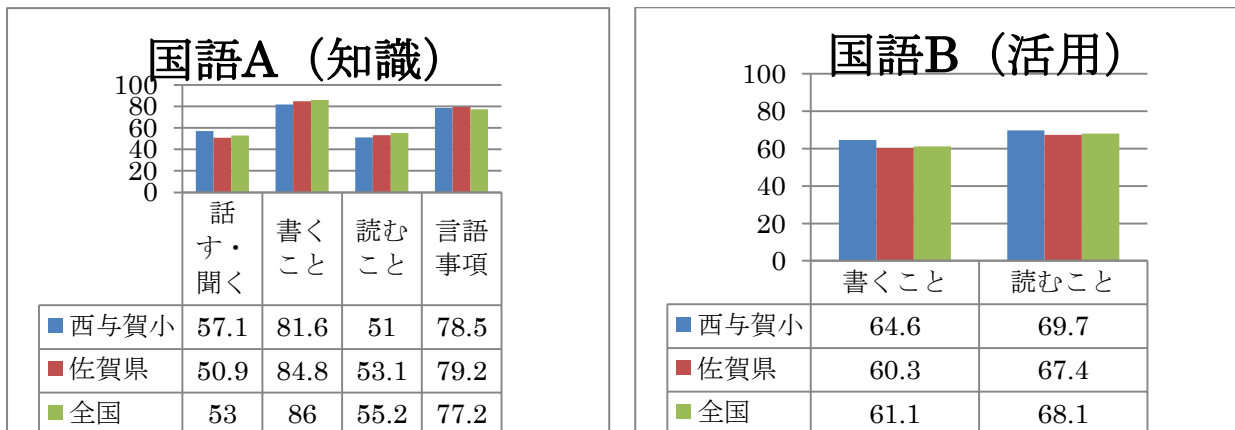
#### ■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生(中学3年生)と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数(数学)、理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

## ■ 調査結果及び考察

### 1 国語

#### (1) 結果(西与賀小正答率、佐賀県正答率、全国正答率との比較)



国語 B は全領域の正答率が全国平均を上回っている。

国語 A は「話す・聞く」「言語事項」の 2 つの領域で全国平均を上回っているが、「書くこと」「読むこと」領域は全国平均を下回っていた。

#### (2) 成果と課題

##### 話す・聞く

・国語 A で、聞き方の説明として適切なものを選択する問題の正答率が高かった。

##### 書く

・国語 A では、説明の文章の書き方の工夫として適切なものを選択する問題の正答率が低かった。国語 B では文章の要旨をまとめて書く問題の正答率が高かった。

##### 読む

・国語 A では、新聞のコラムを読んで表現の工夫を捉える問題の正答率が低かった。国語 B では登場人物の行動を基にして場面の移り変わりを捉える問題の正答率が高かった。

##### 言語事項

・国語 A で、漢字の読み・書きの問題は、どれも正答率が高かった。文の中における主語を捉える問題の正答率が低かった。

#### (3) 学力向上のための取組

##### 【学校では】

○文章の書き方の工夫についての問題の正答率が低かったので、国語の「書くこと」の単元の学習を低学年からの着実に指導を積み重ねて目的や意図に応じて書く力の習得に努めます。

○スキルタイムなどでの練習を積み重ね、文中での語句の役割や語句相互の関係に気をつけて文の組み立てを考える力の育成を図ります。

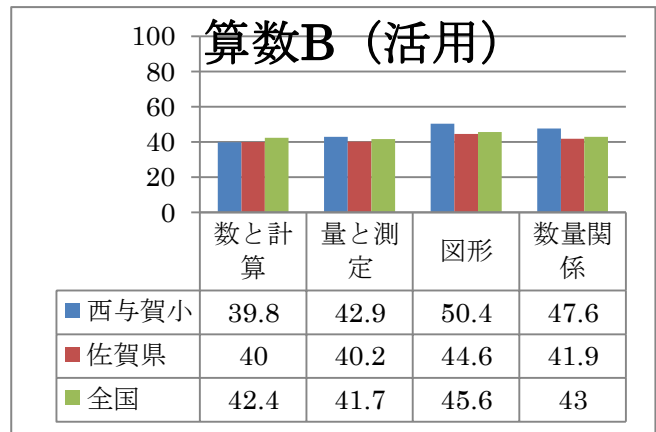
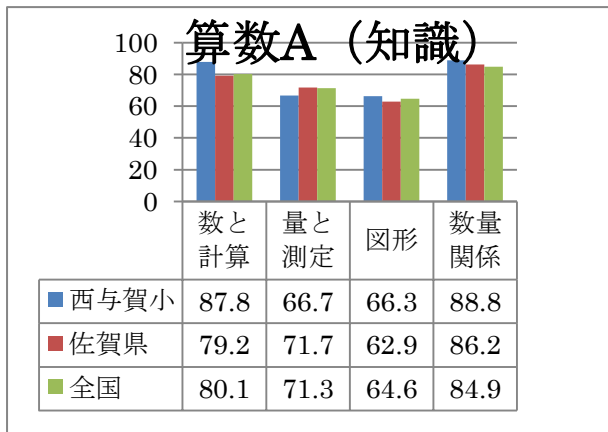
##### 【ご家庭では】

○音読が学習の基本です。お子さんの音読を毎日聞きましょう。繰り返し音読することでますます読めるようになるだけでなく、文の構成や言葉の意味を理解できるようになります。

○親子でいろいろな本を読みましょう。様々な言葉や表現にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。

## 2 算数

### (1) 結果(西与賀小正答率、佐賀県正答率、全国正答率との比較)



算数Aも算数Bもほとんどの領域で全国平均を上回っていた。算数Aの「量と測定」領域、算数Bの「数と計算」領域が、少し全国平均を下回った。

### (2) 成果と課題

#### 数と計算

・算数Aではどの問題も全国より正答率が高く、良くできていた。算数Bの切り上げた場合の見積りの結果をもとに目標に達しているか判断する問題の正答率が低かった。

#### 量と測定

・算数Aでは180度より大きい角の大きさを求める問題の正答率が低かった。算数Bでは、面積を二等分する考えを適用して面積を求める問題の正答率が高かった。

#### 図形

・算数Aでは全国と同程度かそれ以上の正答率だった。算数Bでは全国でも正答率が低かった分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述する問題の正答率が本校でも低かった。

#### 数量関係

・算数Aでは、全国より高い正答率だった。算数Bでは、比較量と割合から基準量を求める問題の正答率が全国より10ポイント以上高かったが、目的に応じた買い物の仕方を選択する問題の正答率が全国より低かった。

### (3) 学力向上のための取組

#### 【学校では】

○問題を的確につかみ意欲や見通しをもって問題解決に取り組むことができるように授業の導入の工夫をしていきます。

○スキルタイムやすすくタイムで児童の実態に応じたドリル学習を重ね、基礎・基本の着実な習得を図ります。

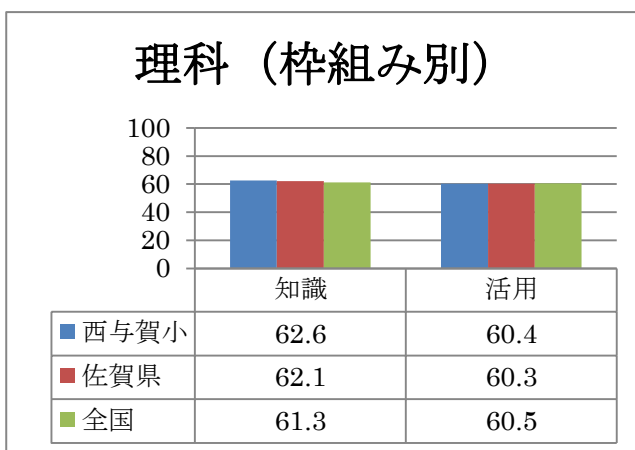
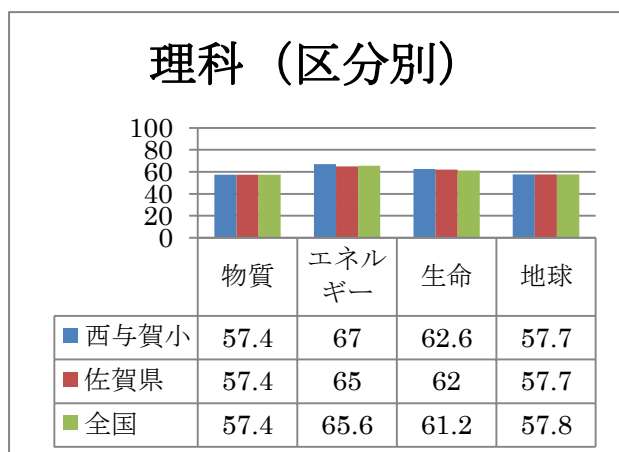
#### 【ご家庭では】

○ノートや宿題、テスト等に目を通していただき、学習内容、理解度などを見ていただき、励ましや賞賛の言葉かけをお願いします。

○学習したことを生活の中で使うことができること実感できるとさらに身につきます。算数で学習したことを親子で身近な生活場面で使うようこころがけてください。

### 3 理 科

#### (1) 結 果(西与賀小正答率、佐賀県正答率、全国正答率との比較)



理科は、区分別に見ても枠組み別に見ても全国とほとんど同じレベルであった。区分別では「エネルギー」の問題の正答率が他の分野より高かった。枠組み別に見ると、知識は全国より高いが、活用はわずかに下回った。

#### (2) 成果と課題

##### 区分別

・「エネルギー」の問題は正答率が高い問題が多かった。特に電磁石の働きを利用した振り子で試行した結果を基に自分の考えを改善できるか見る問題の正答率が全国より10ポイント以上高かった。しかし、磁石の性質を振り子が左右に等しく振れる仕組みに適用する問題の正答率は、全国より5ポイントほど下回った。

・「生命」の問題では、顕微鏡の名称を問う問題は全国より5ポイント以上正答率が高かった。

##### 枠組み別

・「活用」の問題では、グラフをもとに考察して分析した内容を記述する問題や植物の栽培に適した場所を選んだ理由を記述する問題の正答率が、全国より高かった。しかし、振り子の調整の仕方を調べるための実験について条件を制御しながら構想する問題や、試行した結果を基に自分の考えを改善できるかをみる問題の正答率が、全国より低かった。

・「知識」の問題では、顕微鏡の適切な操作方法についての問題の正答率が、全国より低かった。

#### (3) 学力向上のための取組

##### 【学校では】

- 実験や観察の時間を十分に確保し、児童が体験を通して学んでいく授業作りをしていく。
- 変える条件と変えない条件を整理して実験の仕方や結果について考えさせたり、うまくいかなかった原因を考えて改善方法を考えさせたりして、思考力の育成を図ります。

##### 【ご家庭では】

- 植物、月や太陽、電気など身近なものからのお子さんの気づきを大切にして、一緒に観察したり本やインターネットで調べたりするとお子さんの理科に対する関心が高まります。

## 4 生活習慣や学習習慣に関する調査

### (1) 結果

#### 《生活習慣について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか？	78.0	87.6
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか？	38.0	39.2
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか？	64.0	60.0
平日 2 時間以上テレビを見る。	54.0	59.2
平日 2 時間以上ゲームをする。(TV ゲーム・パソコン・携帯型等も含む)	36.0	30.2
平日読書を 30 分以上している。	30.0	37.7
平日読書は全くしない～10 分未満。	38.0	35.7

就寝・起床については全国平均なみである。朝食は、やや全国平均を下回った。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムは今後も継続して指導していく必要がある。テレビについては、長時間視聴する児童は全国よりやや少ないものの、ゲームの時間が長い傾向が見られる。特に4時間以上と答えた児童が全国より多かった。平日の読書の時間が全国より短い傾向がある。10 分以上 30 分未満の読書時間だと回答した児童が最も多く、ゲーム時間の問題とあわせて家庭での時間の使い方の指導が必要である。

#### 《家庭学習の様子について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
平日 2 時間以上勉強している。	22.0	25.7
平日 1～2 時間勉強している。	52.0	37.0
平日 0～1 時間勉強している。	26.0	37.2
家で、学校の宿題をしている。(どちらかといえばしているも含む)	92.0	96.8
家で、授業の予習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	50.0	43.4
家で、授業の復習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	60.0	54.5

家庭での学習時間は個人差があるが、全体の70%以上の児童が平日に 1 時間以上の家庭学習をしていて、全国平均を上回っている。宿題・予習・復習については全国なみである。今後は、家庭学習の質を高め、自分で計画的に意欲をもって家庭学習に取り組むよう指導していく必要がある。

### (2) 改善に向けての取組

#### 【学校では】

- 「音読」「漢字学習」「プリントやドリル」を基本に宿題を出しています。自主学習についても全校での取組を進め、発達段階に応じた指導をしています。
- 「生活パワーアップ週間」を利用して、児童一人一人の課題に応じた指導をして、より良い生活習慣を身につけることをめざします。

#### 【ご家庭では】

- 「家庭学習の手引き」を参考に、自分で決めて計画的に学習できるように励ましてください。また、お子さんががんばっているところ見つけてほめてあげてください。
- 一緒に読書する、学習中はテレビを消すなど、家族で協力して取り組んでくださるとお子さんの学習への意欲を高めることができます。ご協力をお願いします。